学生島活プロジェクト

板倉菜生，盛岡志野（木村(敏)ゼミ所属）

キーワード：空き家活用，中古住宅，家島，地域コミュニティ，地域おこし

1. プロジェクト説明

離島において，人口減少と高齢化が顕著に現れ，深刻な社会問題となっている。本 PJ の対象地である瀬戸内海東部の播磨灘に浮かぶ家島は兵庫県姫路市の離島であり，人口減少に伴う空き家の増加が懸念されている。そこで，本 PJ では家島の活性化促進を基盤とし，空き家再生について検討する。

PJ の目的は，①家島における空き家の現状を把握すること，②空き家問題の深刻さと空き家再生の試みを調査すること，③空き家再生活動に触れること，である。さらにこの PJ は今年度から開始したものであることから，来年度以降の活動につながる体制づくりも行った。本年度の活動を通じて，大学生という立場であっても離島での問題解決に携われることを理解すると共に，建築を学ぶ学生の視点から家島の課題に取り組み，地域おこしの手助けを行った。

2. 活動紹介

本 PJ は今年度の 9 月に実施された特別 FW で家島に訪れたことが始まりとなった。我々は初めて家島に訪問し，島内を巡るとともに空き家の現地調査を行った。ヒアリングで得た家島の現状，島の雰囲気，対象となる空き家とその周辺地域の調査から，１軒目の空き家再生案を起案した。我々と家島コンシェルジュ・中西和也氏，担当教員で訪問から 2 週間後に再生案を共有し，提案に対するフィードバックを頂いた。再生案の中で(1)宿泊施設，(2)観光客の休憩スポットに活用するという２つの提案を行った。我々の提案をまとめ，環境人間学フォーラム（11 月

図１　環境人間学フォーラム・ミニポスター（出所）筆者作成

開催）で活動の成果として発表した。発表を通して，我々が活動内容を振り返るとともに，フォーラムに参加した学生から PJ や再生案に対して多くの意見をいただくことができた。いただいた意見を取り入れ，活動の成果と課題の見直しを行った。

12 月以降の活動は，来年度以降この活動を継続していくための基盤づくりと更なる空き家再生のため，2 回の家島訪問を行った。12 月 2 日にオンラインミーティングを実施し，PJ の目的と今後の進め方について確認した。12 月 17 日には 2 度目の家島訪問を実施し，2 軒目の空き家の現地調査と移住者へのヒアリング調査を行った。今回のヒアリング対象者は，地域おこし協力隊をきっかけに移住された女性であった。人口減少が顕著である家島は，積極的に移住者を受け入れており，移住の際には住居として中古住宅を提供することがほとんどである。そのため，実際に移住された方へのヒアリング調査は，空き家再生の提案において貴重な意見であった。そして訪問後にヒアリングで得た情報も踏まえ

ながら，2 軒目の空き家再生案の提案を行った。2 軒目では，建築事務所の方が提案された再生案と我々が計画したものを比較した。我々は庭，広い縁側，和室 2 室をつなげて学童保育のような放課後に島の子供たちが集まる「たまり場」を提案した。これに対し，建築事務所ではその部分を土間空間に変更し 2 階の一部を吹抜け空間として連結することで，既存の古風な様式を残した「ワーキングスペース」を提案している。

1 月には空き家再生の実践例である「家島ハレテラス」で 1 泊 2 日の宿泊体験を行った。また，中西氏指導の下，空き屋修繕の DIY を体験した。宿泊体験では空き家再生の取り組みがなされた宿泊施設に泊まり，利用者を増やすための PR 方法や改善点を提案した。さらに DIY のスキルを身に付けるために，再生物件の修繕を行った。雨天のため室内作業のみとなったが，カーテンレールや壁紙の補修，家具や浴室のタイルの修繕といった家屋修繕の基本的な作業を体験した。本年度，最後の活動として，1 月 25 日に家島訪問を予定していたが悪天候により中止となり，予定していた２人目の移住者へのヒアリングをオンラインで行った。２人目の対象者はパラグアイから移住されたご夫婦であった。旦那様が日本人，奥様がアルゼンチン人のご夫婦であった。ご夫婦は家島に移住されたことだけでなく，奥様が初めて日本で暮らすにあたっての意見も聞くことができた。

写真 2 家島でのヒアリングの様子
（出所）筆者撮影

3. 今後の展望

今年度から始動した本 PJ は来年度以降も活動を継続，拡大する予定である。そのために来年度は PJ 参加メンバーの増員と実践的な空き家再生の実現を目標に活動を進める。現在，現 3 年生 2 名がコアメンバーとして中心となり活動を進めており，宿泊体験の際にサポートメンバーとして現 3 年生 2 名が追加で参加した。今後は PJ を継続するために参加メンバーも追加し，今年度の活動で得た情報や DIY スキルなどの伝承を試みる。また，現メンバーにおいても DIY 経験が少なく，知識やスキルが十分であるといえないため引き続き経験を重ね，スキル向上を目指す。活動内容については新メンバー追加に合わせて再度家島を訪問し，現地の現状把握を行うとともに DIY 作業を重ねる。さらに空き家再生を実現すべく，再生案の提案にとどまらず可能であれば再生活用する物件を選定し，地域おこしとなるような建物を実践的に再生・活用することを目指す。

【謝辞】
本 PJ の実施にあたり，ご指導，ご協力いただいた中西和也氏（家島コンシェルジュ），太田尚孝先生，木村敏文先生および地域のみなさまに心より感謝申し上げます。

写真 3 DIY 作業(カーテンレール修繕)の様子
（出所）筆者撮影